

地域密着型サービス事業者 自己評価表

認知症対応型共同生活介護事業所 (小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム広野の家	評価実施年月日	平成21年11月
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	平成21年11月1日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	地域の厚い要望で開設されたホームである。、地域性を日常的に取り入れ、高齢になり介護が必要になっても「自分らしく暮らせる」ことができえるホームであることの実践を積み重ね地域の皆様に評価されるように努めている。		
2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	常に理念に立ち返り、日々の取り組みが理念に沿ったものであるか、振り返るようにしている。事業所内にも掲示している。		
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	地域の理解もあり、交流の場も持つことができ、提供するサービスを理解していただける機会にもなっている。ホームの環境整備、畑等地域の皆様の力を活用させていただいている。		
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	日常的に散歩で声を交わしたり、ウォーキングを日課にしている利用者があるため地域の方とは顔見知りになっている。野菜の調達等で地域との関係がホーム運営の力となっている。		
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域の行事には参加している。保育所、学校の行事等馴染みの関係を確立できるように地域の交流の中から、地域に根ざしたホームを目指している。		
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	「憩い」と名づけた、地域の高齢者との交流をホーム内で、地域のボランティアと共同で開催している。食事を提供しゲーム・会話などの交流の場を持っている。ホームの説明をしたり、提供するサービスを紹介してグループホームの理解の場にもなっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価を受けるために、日々の取り組みの見直しを図ったり、理念の確認の機会と捕らえ、全職員とのケアの共有の運営を振り返る機会になっている。		
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営状況、利用者の活動状況等細部にわたり情報開示し、参加委員から意見をいただくことで、日々の介護サービス提供の見直しに役立てている。利用者の思いも伝える場として生かしたい。		
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	帯広市のケア会議に参加している。		
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	講師を招いて研修会を持ったり、研修会に参加している。		
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修会には参加している。		
4. 理念を実践するための体制			
12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約書・重要事項の説明書・運営規定等の説明を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者との信頼関係を作り、利用者の思い、苦情、意見が自由に伝えられる関係に努めている。コミュニケーションが図れない利用者に対しては常に状態を把握して、思いを汲み取れるケアに努めている。利用者が主体の生活支援を理念としているため、常に理念を振りかえり確認している。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月お便りを送りホームでの生活状況を報告している。預かり金。領収書・貯金通帳等コピーして送っている。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の日常生活については、随時報告しながら、家族に状態報告をしている。そのつど家族の意見が、自由に言える信頼関係を作れるように配慮している。苦情箱も設けて苦情・意見不満が反映できるようにしている。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員の「提案」を取り上げてくれるシステムがある。日常的に申し送り等で意見が言える関係作りに努めている。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	人員基準より多く配置されていて、入院・通院・買い物・行事等には法人内の職員が応援してくれ、利用者や家族の状況に応じて、対応できるように配慮している。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	運営委譲に際し、馴染みの職員の確保に努め、継続的に支援できる体制に努めているが、異動もやむを得ずの場合に備え、法人内で行事等合同で持つなど、馴染みの関係つくりを配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>研修計画を立てて、段階的に資格習得のための研修を受講している。スキルアップのために必要と思われる研修には随時受講している。</p>	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>管理者が介護福祉士会・高齢者介護の勉強会の代表を務めたりグループホーム連絡協議会の事務局をもっているため交流の機会は多く研修の活動には職員も参加していて、相互評価研修事業では、お互いの施設で評価をしてサービスの質の向上に努めている。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>職員間のチームワークが提供するサービスに大きく影響するものであることの理解を、確認しあい、楽しく働ける環境を作るように心がけている法人内の職員の交流会に参加しているが、日常的に信頼関係を作れることを大切にしている。</p>	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>個々の適正を見極め得意分野を生かせるように業務分担したり研修への参加を図っている。</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>その人らしさを支援すること、介護計画に掲げているので、家族の意見もいただきながら、状態に変化があるとカンファレンスで「その人らしさ」の尊重がなされているか、職員が共通の意識で介護サービスが提供できるように検討している。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>面会時には特に状態報告して家族の思いを聞き、職員の思いを伝えている。提供している介護サービスの内容を充分理解していただき、意見を求められやすいように配慮している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	利用にあたり見学して頂くことを原則として、十分にホームでの生活・環境・サービスの内容を説明納得していただいている。		
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	利用開始前にホームで共に過ごす時間が取れる方にきていただき、馴染みの関係が作れるようにしたい。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	利用者主体の生活が営まれるように、得意分野・役割意識等に配慮して生きがいに繋がるように、生活全般に配慮している。職員が学ぶことも多く、男性利用者が魚をおろすのを職員に伝承してくれたりの場面を発掘している。		
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。</p>	時には家族のに対する思いを伝えることで、家族との関係を支える関係も大切にしている。受診、外出、外泊等の機会をお願いしている。家庭では見えない利用者の行動・表情など密に伝える。		
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。</p>	利用者の状況を報告したり、変化があるときには共に対応できるように働きかけている。		
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	個々の利用者の思いを聞くことで住んでいた所などたずねたりしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士の交流の機会を持ち、助け合う関係を作って、自ら会話を持ったり関る事が増えてきている。例ゲームに参加することで笑い合える、散歩では車いすを押してもらい、家事に参加で職員の介助に自ら手伝う等の関係ができた。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	ケースがない。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	センター方式を導入認知症の理念に最も沿ったものとして理解を深めていてより良く暮らせるために個々の意向を反映できるように努めている。24時間シートで見えにくい部分は標準シートで確認している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族からも情報を得ながらアセスメントを生活の変化に対応させながら行っている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	利用者のペースに合わせながらも生活全般に参加することで持てる力が発揮でき達成感・労働の喜びを感じていただけるように環境をつくり利用者本位の係わりケアが提供されているか点検している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	担当者が常に利用者の状態を把握できるように受診、家族との連絡等担当ごとに行い直接的に対応して変化に即対応できるように努めている。さらに担当者が全体に図り情報の共有と意見を求めることでチームで取り組めるように配慮している		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	定期的に作成しているが状態が変化したときにはそのつど作成している。環境を整え持てる力を引き出し介護度の軽減が図られている。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	記録は日中・夜間とも毎日記録。写真も添付することで家族に状況から表情までわかりやすいように工夫していてスタッフも提供したケアの点検にも役立てている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	地域に即したホームとして地域住民の協力を仰ぎながら在宅の高齢者との交流を持ち、園芸など「農」的生活が堪能出来ている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	文化的な環境に触れることができるように関連施設の利用を図っている。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	他の事業所との交流を図るために互いのホームを訪ねあったり地域の高齢者との交流会を定期的に設けている。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	知己包括支援センターとのかわりには運営推進委員会のメンバーから必要な情報を頂いたりホーム運営にかかわるアドバイスをいただいている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>43</p> <p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>受診については本人家族の意向に沿い囑託医はあるが在宅時のかかりつけ医をお願いしているケースが多い。</p>		
<p>44</p> <p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>認知症の進行に伴いかかりつけ医に状態報告し紹介状を頂専門医の受診を欠かさずうけて診断を仰いでいる。</p>		
<p>45</p> <p>看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>定期的に看護師が訪問して状態報告しながら医療の適切な指示を仰いでいる。</p>		
<p>46</p> <p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>入院については医療関係者と連携し入院が長期にならないように配慮している。</p>		
<p>47</p> <p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>入居時に説明している。利用者とは話題を提供して考え方を把握している。重度化しても安心して暮らせるようなホーム作りを目指している。</p>		
<p>48</p> <p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>かかりつけ医の同意が得られるように検討しているが家族の協力があれば終末期を受け入れる体制を整え専門職としての知識の向上を図るための研修会には積極的に参加している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>入居申し込み時は利用者本人にも見学していただき納得できるように進めている。退去者にはできる範囲で関係が継続できるように図っている。</p>		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>利用者の思いを尊重して思いのまま生活できる場であることを職員間でも確認しあい、利用者にも日常的に話している。</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>自己決定できない利用者の対応には日頃から注意を払い心の内が理解できるようにはたらきかけるようにしている。</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>自由に活動していただくために利用者の活動を制限することなくその日の活動は本人の意向を確認しながら始めている。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>地域的に自由に選択できる環境にないのでおしゃれできるものをそろえて不足がないようにしたり外出の機会にお洒落に興味がある方は洋服等選んで買える環境を作っている。</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>食事に関してはこだわりがあり食べる楽しみが生活の中で大きな満足感を得られるものとしてとらえている。みそ作り、菜園等利用者で行っている。食事作りもできることは皆さんが参加している。職員を指導できる場面が意欲につながっている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	日常的に飲酒を楽しめる利用者が多く機会も作っている。		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	ほとんどの利用者が紙パンツを昼夜使用していたが現在日中は布パンツを使用している。トイレ誘導をこまめに実施することで生活の意欲を高めたり自立に向けての支援の取り組みの原点と考える。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	拒否の強い利用者は個々に合わせている。夏季は毎日でもシャワー浴を実施したり温泉に行ったり入浴を楽しんでいる。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	活動的な生活を送ることで安眠の確保を図り、就寝時間まで楽しむことの工夫を図っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	家庭菜園で労働できることの喜びを表現してくれたり、羊馬をを観察する楽しみがあったりカラオケ楽しんだり個々に過ごし方があり朝玄関掃除等積極的におこなってくれている。		
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自己管理できる方にはしていただいたり買い物等で金銭感覚を失わないように努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	雨天以外は散歩が日課になっている。ドライブが好まれるので日常的に外出・外食等楽しみながらホームで見えない状態把握に努めている。外出のたびに「明日からまた広い愉快的な気持ちで生活できる」の言葉が聞かれる。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	ドライブ等の外出は日常的に実施している。利用者の住み慣れた地域に出かけたり温泉一泊旅行も実施している。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	手紙で定期的に交流したり電話は訴え時はもちろん家族との関係を維持できるように配慮したり面会者には食事をもてなし共に過ごす時間を大切にしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会は自由に訪問できるように伝えている。友人などの訪問時には食事を共にできるような配慮に心がけている		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束が必要になることがないように常に利用者の状態を理解して重度になっても活動性を高めて認知症の進行をできるだけ抑えるケアを考えている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	畑・外の掃除・羊の観察など利用者がおもしろい行動があるので施錠はしていないしこのことが生き甲斐になっていて体力維持の源になっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>67 利用者の安全確認</p> <p>職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>玄関の施錠管理していないので自由に出入りしているので常に利用者の行動は把握して安否の確認をしている。</p>		
<p>68 注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>利用者の状態に合わせて検討し必要な物品は購入不足が生じないように配慮している。</p>		
<p>69 事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>研修会に参加したりヒヤリハットの検討を実施している。</p>		
<p>70 急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>研修会に参加したりヒヤリハットの検討を実施している。</p>		
<p>71 災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>避難訓練実施</p>		
<p>72 リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。</p>	<p>利用者の状況に応じたケアを提供できるように其のつど変化に応じて対応している。メンタルな面でも状態により主治医に</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	嘱託医・特養等の協力で状態に変化があったときには対応できる体制が出来ている。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の説明書は必ず読んでいて副作用には注意を図っている。		
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	運動外にできること散歩は欠かさず実施している。献立に配慮していて、野菜をふんだんに取り入れている下剤服薬者は量の調整を図りながら減らしている		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	年に一回口腔ケアの研修会にも参加していて、毎食後口腔ケアを実施している。外出時にはうがいを欠かさない。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	チェック表を作り常に把握している。嗜好に合った食事の提供に努め食欲と健康状態を常に配慮している。体重、排泄もあわせて注意を払っている。水分はこまめに取れるように工夫している。		
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防のため法人内の研修会には参加して時期に合わせた留意事項の確認を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	マニュアルを作り衛生管理には充分検討しながら生活している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	玄関も2箇所あり常に来客が入りやすいように地域の方との交流を配慮しながら日常的な付き合いを大切にしている。		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	季節感を取り入れるために、花を季節に合わせて飾っている。		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	居室は狭いが共有スペースが多いため思い思いの居場所は確保できている。		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	利用者の馴染みの者は入居時に持参していただいている。居室の模様替えは利用者で行っている。安全確保のため消防から指導された。		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	定時の換気を行っている。体臭の強い方には入浴の回数をふやしている。清潔に努めホーム内の清掃には専門の業者を定期的に入れていく。(床の清掃)掃除は入居者と毎日行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>手すりも多く、車いすから歩行器そして手引き歩行と段階的に取り組んでいる。紙パンツから布パンツにも取り組んでいるが長年の習慣を利用者が納得できるように配慮しながら排泄介助にも自立の方向で取り組みをしている。</p>	
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>個々の状態を把握して、自立支援に向けて生活の中で自信と生きがいに繋がるようなケアを工夫しながら、利用者の満足感、達成感を感じてもらえるように勤めている。</p>	
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>雄大な自然環境をケアに取り入れ、外で過ごす時間の確保に努め園芸、散歩、動物とのふれあい、ウォーキングの継続、山菜採りなど地域性生かした生活を満喫している。</p>	

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない	①
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない	①
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない	①
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない	①
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない	①
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない	①
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない	①
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	① ほぼ全ての家族 ② 家族の2/3くらい ③ 家族の1/3くらい ④ ほとんどできていない	①
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない	①

V. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない ①
98	職員は、生き生きと働いている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない ①
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ①
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない ①

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

雄大な日高山脈を仰ぎながら「農的生活」を体験している。
地域住民の協力によりそれらの環境を整え、利用者が労働する喜びを経験し、感動される言葉が聞かれた。
春は山菜、野菜の収穫など農的生活には、働く機会が多く、活動的な生活こそ認知症の進行を穏やかにするための大きな力となっている。
「食の楽しみ」もこだわりの一つで、手作り味噌の仕込みから調理、買い物など利用者とともに実施している。